軽防協ニュース速報（号外）

2025 年 4 月 2 日
軽種馬防疫協議会　事務局
（JRA 馬事部防疫課）

北海道における馬鼻肺炎神経型の発生

2025 年の 1 月から 2 月にかけ、北海道の軽種馬飼養施設において馬鼻肺炎（EHV-1）の神経型の発生が認められたため、発生した施設から管轄する家畜保健衛生所に対して家畜伝染病予防法の規定による届出がありました。家畜保健衛生所への届出により発生が判明したのは、異なる 2 つの施設で飼養されていたサラブレッドの 2 歳馬であり、それぞれの施設において各 1 頭が神経症状を発症し、EHV-1 神経型と診断されました。なお、この 2 頭のうちの 1 頭は、重篤な症状を呈し、起立不能となったことから安楽死となっています。また、2 頭ともに馬鼻肺炎ワクチンは未接種でした。今後の動向に注意が必要です。

馬鼻肺炎とは？

馬鼻肺炎は、ウマヘルペスウイルス 1 型（EHV-1）あるいは 4 型（EHV-4）の感染によって引き起こされる疾病の総称です。EHV-1 感染の場合は、呼吸器症状（呼吸器型）、流産あるいは生後直死（流産型）、あるいは後駆麻痺を主徴とする運動失調（神経型）の 3 つの臨床型が知られています。日本では、おもに若齢馬群での呼吸器型の流行が、また、生産地では流産が散発しています。一方、欧米では EHV-1 神経型の流行がみられており、2020 年には北米において［1］2021 年および 2023 年にはスペインにおいて［2, 3］流行しており、競馬開催や国際馬術競技大会等に影響を及ぼしています。このため、各国が警戒を強めており、国内の馬サークルにおいても重要な疾病のひとつです。本症の予防として生ワクチンの接種が実用化されていますが、神経型を発症した馬が判明した場合には、早期の診断や他馬からの隔離が重要な防疫対応となります。なお、EHV-4 は、若齢馬に呼吸器症状を引き起こしますが、流産型および神経型の原因となることは極めてまれです。

1. http://keibokyo.com/wp-content/uploads/2020/06/%E8%BB%BD%E9%98%B2%E5%8D%94%E5%8F%B7%E5%A4%96%EF%BC%88EHV%EF%BC%89.pdf
2. http://keibokyo.com/wp-content/uploads/2021/03/%E8%BB%BD%E9%98%B2%E5%8D%94%E5%8F%B7%E5%A4%962021-1.pdf
3. http://keibokyo.com/wp-content/uploads/2023/03/%E8%BB%BD%E9%98%B2%E5%8D%94%E5%8F%B7%E5%A4%96%EF%BC%88EHV-1%EF%BC%8920230310.pdf

軽種馬防疫協議会